



春の河川敷を飛び交うギンイチモンジセセリ。都市近郊では生息地の消滅がすすむ 2016年4月18日 東京都府中市 撮影/永田正人

チョウの舞う 自然

THE JAPAN BUTTERFLY
CONSERVATION SOCIETY
NEWSLETTER NO.31

日本チョウ類保全協会 会誌31号
April 2021

CONTENTS

- 02 海野和男が語るチョウの魅力
ペルーのアグリアス
- 04 特集：ネオニコチノイド系農薬の影響
ネオニコチノイド系農薬の自然界への影響
長期フィールド調査とアカトンボの激減
松本市のマツ枯れ対策をめぐる動き
コラム：マツ枯れとマツノザイセンチュウ
- 20 ご寄付の御礼と保全活動のご報告
- 15 お知らせ/事務局の動き
- 22 イベントの報告

表紙：シルビアシジミ



シルビアという可憐な和名は、がん研究の第一人者であった中原和郎氏の、夭逝した令嬢の名前に由来する。ミヤコグサを食草として、定期的に草刈りが行われる河川の堤防や畔などで、細々と命をつないでいる。

蝶のハイシーズンを終えた8月中旬、近場のシルビアシジミに会いに行った。朝陽を受けて翅を開くとき、やや紫がかった独特の青が広がってゆく。心躍る瞬間だ。何年撮り続けても、この翅表の青を愛おしく、美しいと思う。

兵庫県加古川市 2016年8月14日
写真・文/板野 隆